

(様式3-4) 企画提案概要書

藤沢市制100周年にみらいへの100の贈り物を。

みんなでたがやそう ふじさわ MIRAI ファーム



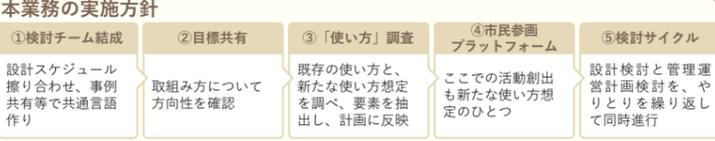
はじめに

FUJISAWA OUR Project は、ビジョンである「ふじさわMIRAIファーム」の名のとおり、みらいに向け、**市民の皆様で、人の活動・文化の種を蒔き、根づかせて育てていく**ことがプロジェクトの全容です。

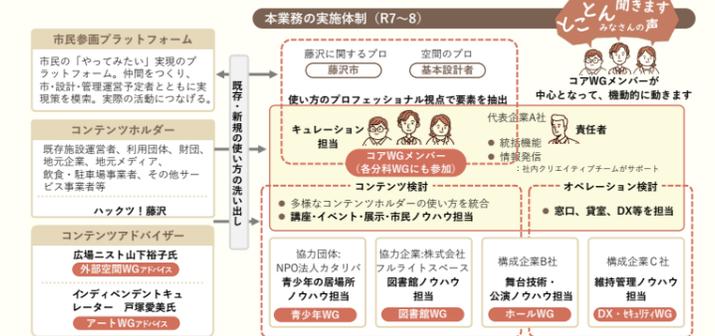
人の活動は、形として残りませんが、場所の拠り所ができることで、文化として根づき、次世代に継承されます。本施設が、文化の根づく土壌となり、子どもたちの心のルーツとなり、世界に羽ばたいてもいつでも帰って来られる「藤沢」の拠り所であり続ける、そんな未来を描いています。

当グループは全国の文化施設運営の豊富なノウハウをもちます、ノウハウだけでは藤沢に根ざす施設にはなりません。市民の皆様と力を合わせる必要があります。藤沢の土と外の土を混ぜ、文化を根づかせる施設の土壌を、ともに耕していきましょう。

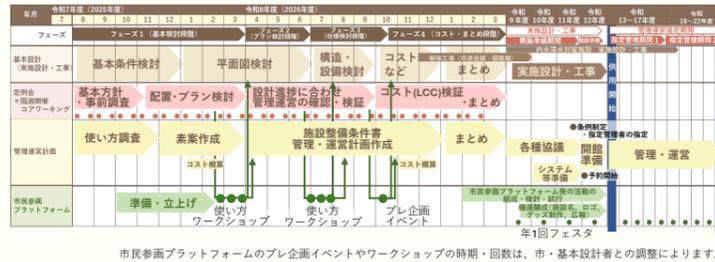
本業務 (計画づくり) の実施方針



実施体制



スケジュール・進め方



ビジョンを実現する3つのポイントに対する取り組み方針

1 チャレンジしたい人と子どもたちの体験・実践・挑戦を応援

- ①好奇心と地元愛を醸成し「チャレンジしたい人」の裾野を拡大
- ②「チャレンジしたい人」の探求・体験・活動の促進
- ③子どもたちの自己肯定感と主体的体験・実践・挑戦機会

2 オープンスペースを介し、ヒトモノコトがシームレスにつながる

- ①公園・図書・展示などオープンな場で活動を創出しヒトモノコトが出会うきっかけづくり
- ②異なるヒトモノコトを交流・共創でシームレスにつなげる

3 時代に合わせて軌道修正と新陳代謝を図り、施設・活動を育て続ける

- ①使われ方を観察し、トライの繰り返し
- ②変化させるハードのしくみ
- ③変化させるソフトのしくみ

1 施設全体をオープンスペースと捉え、多様な活動を感じる場に



ワンチーム体制とコミュニケーター+市民の力の総合力

複合施設では複数の関係者が携わるため、総合力発揮の力は、職員のワンチーム体制です。

デジタル技術等の段階的導入

予約システム等の一元化や、維持管理効率化の技術導入を検討します。

3 コンテンツの融合

子どもたちをはじめとする市民の育ちや活躍を後押しするために

「人々が集い、奏で、響きあう、文化芸術の共創拠点」として、コンテンツを深め、融合させ、多くの人に開かれた、多彩な活動を生み出す場としていきます。

実践する つながる 支える 体験する 触れる

各コンテンツの考え方

- コア周辺領域で積極支援
- 未来の観客層を育むきっかけの公演
- アウトリーチからプロとの共演へ
- オープンスペース展示空間
- ワークインプログレスで無関心層に
- アーティストネットワークを形成
- 本でつながる知がつながる
- 蓄積された知を体験型で展開
- 運営周辺領域で柔軟支援
- ユースワーカーが関係性で築く青少年の居場所
- 毎日訪れるサードプレイス
- 社会参加のショーケース
- 市民活動中間支援コミュニケーター
- トライアルをいたるところに
- いたるところがアートに

コンテンツの融合

- いっしょでもオープンコンサート
- 市民アーティストによる複合アート
- アトリエ工房の機能も
- 藤沢文化のアーカイブ
- プロと中高生の共同制作
- 中高生がまちをつなぐ・編集する
- 屋外空間への音楽・演劇・アート拡張
- エリア全体イベントの実施

2 市民参画 「やってみたい」をともに実現

市民参画プラットフォーム

市民の皆様が施設で「やってみたい」ことを実現する仕組み

基本設計中	実施設計~工事期間中	開館後10年間	2041以降
2025~2026	2027~2030	2031~2040	以降

みらいへの100の贈り物プロジェクト

立上げ・使い方検討シャレット

- プロジェクト進捗共有
- 使い方検討シャレット
- ワークショップ(機運醸成)
- 名称、ロゴ、グッズ、仮囲い発信
- フェスタ開催(案)年に一度

分科会

- 市民サポーター(案)
- 市民アート/パークコミュニケーター(案)
- フェスタ実行委員会(案)

使い方検討シャレットワークショップ

新施設での新たな活動・利用について、施設検討メンバー(市・設計・管理運営)とともに実現方法を模索します(3回で1セット)

- 第1回:インプットの会
- 第2回:アイデア会議・チーム編成
- 第3回:実現に向けた作業会議

4 エリアのマネジメント 「歩く」生活スタイルと文化のエリア波及

周辺エリアへ「歩く」生活スタイルと文化芸術の波及効果を。そのための屋外への活動表出や、アウトリーチのしくみをつくりまします

周回の「歩く」生活スタイルを誘発し日常的に歩きたくなるエリアイノベーション

文化芸術の波及

- アーティストバンク
- アーティストバンク
- サポーターズバンク
- 文化芸術の波及
- 人の流れの波及効果
- 緑の波及効果
- 防災波及効果

収益化実現に向けた検討手順

- STEP1 方針確認
- STEP2 項目毎のスキーム検討
- STEP3 事業収益配置検討
- STEP4 固定しない収益事業の実現性検証
- STEP5 施設ルール設定・しくみの整理

5 収益性の向上と効果 公共性と収益性を確保し収益を還元

公共性とバランスを鑑みて、収益機能の内容をキュレーションします

- 収益の一部を施設アップグレードの原資として還元します
- 事業性を確認しながらスキーム・事業内容・設計を調整し、ルールやしくみを整えます
- 市民や若者のスモールビジネスを応援しながら収益化基盤を整えます

収益化実現に向けた検討手順

- STEP1 方針確認
- STEP2 項目毎のスキーム検討
- STEP3 事業収益配置検討
- STEP4 固定しない収益事業の実現性検証
- STEP5 施設ルール設定・しくみの整理